

## 大垣俊一さんとのこと

米本憲市

### 【1】大垣さんとの出会い

私が大垣さんを知った時期は、私が和歌山県立田辺高校で教員を始めた 1981 年頃だと思います。といっても、特に面識があったわけではなく、そういう方が臨海（京都大学瀬戸臨海実験所）におられると聞いた程度でした。臨海の知り合いから聞いたのだと思います。その後、特に接点はなく、南紀生物同好会の「南紀生物」などに投稿される大垣さんの論文を読む程度でした。その後、大垣さんも白浜から離れたりしたので特に接点もありませんでした。

私が南紀高校周参見分校で勤務していた 1999 年のはじめに、番所崎貝類調査などへの参加依頼が電話であり、たしか、田辺市新万にあった大垣さん経営の学習塾で初めてお会いしました。その後、この番所崎貝類調査や元島貝類調査を中心に関わることになりました。

### 【2】番所崎貝類調査・元島貝類調査・紀伊半島貝類調査

番所崎貝類調査は、臨海近くにある番所崎の岩礁の貝類相の長期変動を知るために、1985 年から始まり、現在まで続いています。私は、1999 年から今年(2012 年)まで、参加できない年もありましたが、4・5 月の連休は番所崎で調査を行いました。

大垣さんは、1987 年と 1989 年と今年（2012 年）の調査には参加されていません。大垣さんが再度、田辺で塾を始めたのが 1991 年ですので、1987 年と 1989 年は、調査に向くことができなかつたのだと思います。今年の調査は、大垣さんは体調不良とのことで、大垣さんの指示により、例年の調査区数 69 から縮小して 25 区画で、私と船山展孝さんと二人で行いました。

元島貝類調査は、大垣・私・船山の 3 名で 1999 年から 2007 年までの 9 年間行いました。これは 2 つの調査からなり、番所崎と同様な調査(1999 年～2004 年)と元島の全岩礁の調査(2005 年～2007 年)です。このデータは Argonauta で web 上に公開されています。紀伊半島貝類調査は、紀伊半島南部、特に串本～新宮間のポイントを選んで、その貝類相を記録しました。これも、大垣・私・船山で行いました。大垣さんは単車(カブ)で調査に行っていましたので、遠いところは、私か船山さんの自家用車で行きました。暑い夏だったです。



図1：2004年5月5日 番所崎貝類調査。左から 大垣・船山・田名瀬・大和。

### 【3】大垣さんの八重山時代の写真

大垣さんが5月に亡くなり、遺品の整理のときに、ご遺族のご了解を得て、大垣さんの八重山時代（沖縄県石垣市在住のとき）の写真を受けました。もちろん、大垣さんご自身が写った写真は1枚もなく、すべて、大垣さんが撮影したと思われる、生物や風景の写真です。写真には番号（No1～No675）、撮影日、撮影場所、コメントが裏面に記されています。また、写真はポケットアルバムに番号順に入れられ、そのアルバムは保育社の海岸動物図鑑IとIIの箱に入っていました。大垣さんらしいきちっとした整理です。

No1の撮影日は1988年5月31日、飛行機から撮影した富士山の写真です。No2は同年6月2日、船上から撮影した宮古島の平良港、No3は6月3日、石垣島の宮良川の写真でした。これら3枚の写真から、大垣さんは羽田から那覇まで飛行機で移動し、那覇新港から船で、宮古島を経て、石垣島に到着したと想像されます。No13は石垣島ガーラ岳のノボタンの花の写真で、この頃、ガーラ岳や宮良川河口の生物の写真があります。

No65は、1988年6月11日撮影の琉球海運の貨客船プリンセスオキナワで、No66は、12日撮影の糸満市大渡海岸のクロウニの写真ですので、6月11日に石垣港から出発し、翌日那覇港に到着したと思われます。No67は1988年9月13日撮影の石垣市の川平の風景写真ですので、この日までに石垣にもどったのでしょう。

同様に、11月8日には小浜島に出発しています（No218）。また、11月20日には西表島の仲間川の写真（No241）があります。23日の写真（No255）まで西表で、24日から石垣の白保の写真（No256～）になります。



No314 は 1989 年 2 月 12 日撮影の波照間空港の写真です。No344 が上空から撮影した波照間の海岸の写真で、日付は 2 月 20 日、この日まで波照間島に滞在したようです。

最後の写真、No675 は西表島の後良川のサガリバナの写真です。日付は 1990 年 7 月 23 日です。

大垣さんは、1991 年からは田辺在住です。以下、いくつかの写真を載せます。



図 2: ノボタン (No13)



図 3: ガーラ岳からの風景 (No24)



図 4: 宮良川河口のマングローブ (No28)



図 5: 川平湾 (No78)



図 6: 西表仲間川上流の船着き場のサキシマスオウ (No251)



図 7: 波照間島高那断層崖 (No323)





図 8: 石垣島伊野田共同売店 (No434)



図 9: 1989年6月10日 与那国島西崎 (No517)

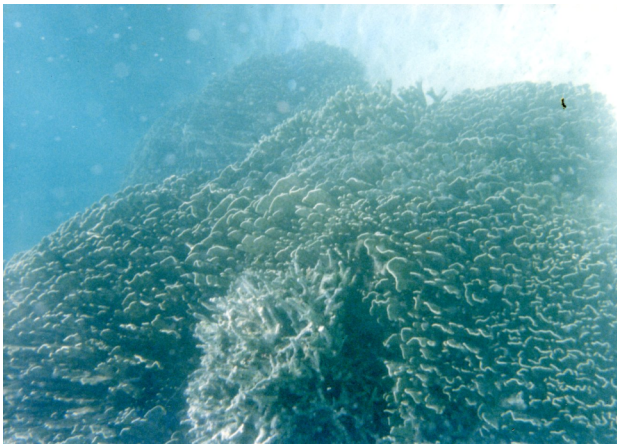


図 10: 1989年10月15日 白保 たぶんアオサング (No581)



図 11: 1989年10月15日 白保 (No595)



図 12: 1990年7月23日 西表島後良川 サガリバナ (No675)

#### 【4】学習塾「武蔵野館」での会話

大垣さんの学習塾は田辺市の市街地の高台の新万(しんまん)にありましたが、そこで、大垣・米本・船山の3名で調査データの取りまとめや点検などを行いました。そのあと、紅茶を飲みながら話をするがありました。田辺の花火大会にあわせて、花火を見たこ



ともありました。また、2005年頃、学習塾が田辺の町中のビルの3階に移転し、「武蔵野館」という塾の名と看板ができました。「武蔵野館」の武蔵野は、大垣さんが東京の武蔵野で育ったことからとったと聞きました。武蔵野館に移転してからは、武蔵野館がデータの取りまとめや点検、茶話会の場所となりました。

武蔵野館では、男3人でとりとめもない話をしました。でも、大垣さんの個人的な事などはほとんどありませんでした。あまり、そのような話は、好みではなかったようです。ただ、中高一貫の私立高校から京大に入学したとは聞きました。また、大垣さんの趣味は、子供の頃は切手の収集で、最近是将棋をさすと言っていました。昨年(2011年)夏に胃がんの末期とわかってからは将棋をさす時間もなかったと思いますが。

武蔵野館での話のほとんどは貝の話だったです。田辺周辺で採集した貝、特に、カキの仲間とアッキガイの仲間の話が印象的でした。毛のないケガキとマガキの区別点、オハグロガキ、ノコギリガキ、イワガキのこと、また、亜潮間帯によくいる表面が摩滅したカキは何かなど。アッキガイでは、シマレイシガイダマシやイボニシの行動のことや小型のアッキガイの見分け方などいろいろ聞きました。大垣さんと船山君は、同定が確かですが、私は疑問種があると、2人に聞きながらの調査でした。

#### 【5】大垣さんのフィールド 番所崎貝類調査の岩礁 2012年5月5日



(こめもと けんいち・和歌山県立神島高等学校)